

## ヨーロッパ経済論 2

## 第 3 講 ヨーロッパ経済社会の概要

## 1. ヨーロッパ経済の状況

## (1) GDP 規模(表 1)

- ・ EU : 12 兆 5 千億 アメリカ : 11 兆 8 千億、日本 : 3 兆 6 千億 (ユーロ、2008 年)
- ・ ドイツが最大 2 兆 4 千億で最大。以下、イギリス、フランス、イタリア。
- ・ 金融危機の影響で縮小傾向の予測。

## (2) 一人あたり GDP(表 2-1、2-2)

- ・ EU 平均で 25100 ユーロ 最高ルクセンブルク 68100 最低ブルガリア 10100 (2008 年)
- ・ EU 全体を 100 とすると、アメリカが 154.4、日本が 111.0
- ・ この 10 年でアメリカ、日本と EU との差は縮小傾向。
- ・ ドイツ、フランスの相対的地位は低下。
- ・ EU 加盟国内の経済格差は依然としてあるが、縮小傾向にある。

## (3) 実質 GDP 成長率(表 3)

- ・ 近年、EU 全体の成長率は相対的に高く、日本・アメリカよりも高い水準で推移してきた→金融危機の影響が強く、マイナス成長傾向が続くと予測。2009 年はすべてマイナス予測
- ・ ただし、2008 年は日米より高い成長
- ・ バルト 3 国、アイスランドはマイナス 10%以上の可能性

## (4) インフレ率(表 4)

- ・ これと言った基準はない (インフレターゲットでは 2~3%目標とされる)
- ・ EU は 2000 年頃から 2%前後で安定して推移→金融危機でインフレ加速 (2008)
- ・ アメリカは変動幅が大きい。日本はデフレ傾向で推移
- ・ バルト三国・アイスランド・トルコはインフレ率が高い (2008 年)
- ・ 東欧諸国はインフレ率が低下傾向で推移してきた→金融危機以後悪化か？

## (5) 失業率(表 5、表 6)

- ・ EU の失業率は 7.0 とアメリカ、日本よりも高い水準。
- ・ 主要国ではスペインが 11.3%と高い。ドイツ 7.3、フランス 7.も高い水準にある。
- ・ オランダ、デンマークは失業率が低い。
- ・ 若年失業率は EU で 15.4%とさらに高い。
- ・ ギリシャ、イタリア、スペイン、スウェーデン、クロアチアは 20%を超えている
- ・ 日本 (2007 年) よりも低いのは、オランダ、ノルウェー

## 2. ヨーロッパ社会の状況ー人口関連統計から

### (1) 総人口の推移(表 7)

- ・ EU27 では、この 10 年間一貫して人口は増加（この 10 年で 1800 万増加）
- ・ ただし、ドイツは 2004 年から減少傾向

### ○将来人口推計(表 10)

- ・ 新推計では、2035 年をピークに人口減少へと転じると予測
- ・ ただし、減少は緩やか。
- ・ フランス、イギリスなどは、人口増加を続けると予想。
- ・ 2045 年にイギリス、2060 年にフランスがそれぞれ人口でドイツを追い抜き、イギリスが最大国に。
- ・

### ○ 移民人口数(表 11)

- ・ EU27 では 2900 万人の外国人人口（6%程度）
- ・ ドイツが最大で 725 万人以上
- ・ イギリス 402 万人、フランス 367 万、イタリア 343 万人で続く。
- ・ 総人口に占める割合はルクセンブルク 42.6%が最高。
- ・ 主要国ではスペインが 11.6%で最高（いずれも 2008 年）

### (2) 高齢化率(表 8)

- ・ EU 全体では 17%（2008 年）
- ・ この 10 年以上の間、一貫して上昇してきた
- ・ ドイツ、イタリアが高い
- ・ 東欧諸国が相対的に低い
- ・ アイルランド、アイスランド、ノルウェーは低下も。

### (3) 出生率の推移(表 9)

#### ○合計特殊出生率(Total Fertility Rate: TFR)

＝15 歳～49 歳の年齢ごとの出生率を合計したもの。女性が生涯に出産する子供数として解釈可能

2.06～09 ぐらいが人口置換水準

- ・ EU 全体では 1.53 程度（2006 年）
- ・ ほとんどが 2 を下回る水準
- ・ 主要国ではフランスが 2 程度まで回復。ドイツも回復傾向。
- ・ アイスランドが人口置換水準に。アイルランドも 2 に回復。
- ・ 北欧、イギリス、オランダ、などが比較的高い
- ・ それ以外は 1.3～4 程度。東欧諸国でもばらつきがある。

### ○婚外子率(表 12)

- ・ ほとんどの国で 20%を越える。
- ・ 主要国では、ドイツ、イタリア、スペインが比較的低い。
- ・ アイスランド、ブルガリア、エストニア、スウェーデンは 50%以上
- ・ 合計特殊出生率との関連が指摘される
- ・ 日本は 2%未満

## 2. 社会的保護関連データから

### (1) 社会的保護支出額(表 13)

- ・ ひとりあたり支出額は、EU27 で 6349 ユーロ (86 万円程度)
- ・ ノルウェー、オランダ、スウェーデンの順に高い
- ・ 東欧諸国が低い。
- ・ 日本は 68 万 8 千円 (2005)
- ・

### (2) 年金支出割合(表 14)

- ・ GDP 比で、EU 全体でおよそ 11.9% (2006 年)
- ・ 主要国はほとんど 10%以上で、東欧諸国などが相対的に低い。
- ・ 近年低下傾向が見られる (年金改革との関連)
- ・ 日本は 9.2% (2006)

### (3) 高齢者介護支出(表 15)

- ・ EU 全体では 0.48%
- ・ まだ多くの国で 1%に満たない
- ・ が、北欧諸国はいずれも 1%を越える高水準。
- ・ 日本は 1.3% (2006)

### (4) 医療支出(表 10)

- ・ 一人当たり支出データのみ。
- ・ EU 全体では 1674 ユーロ (22 万程度)。
- ・ オランダ、フランス、イギリスが高い
- ・ 日本は 25 万 9 千円

### ○病床数(表 17)

- ・ 10 万人あたりの病床数は、EU 全体で 590.4 (2005 年)
- ・ ドイツが 829.1 で最も多い。
- ・ 日本は 1398 (2006)

### (5) 教育支出(表 18)

- ・ EU 全体では平均 5.05% (2006 年)
- ・ デンマークが 7.98%で最高。
- ・ 日本は 3.4%

資料データ出所：Eurostat <http://epp.eurostat.ec.europa.eu/portal/page/portal/eurostat/home>